



青島の風

青島日本人学校だより
平成29年10月9日
校長 金森 孝子

読書のすすめ

国慶節が終わり、青島では秋の深まりを実感する季節が訪れています。街を歩く人の装いも一変しました。日本では、これから、スポーツの秋、読書の秋など、全国的に文化的な催しが充実するときです。青島日本学校でも、今年2回目の体力テスト、11月の学習発表会の取組など、教育活動を一層充実させ、「ちんたおの力、知力・感性・体力・心」を育ててまいります。そのために、10月9日を二学期後半のスタートとして位置づけ、子ども自身が1年間の折返しを意識し、進んで教育活動に取り組んでいられるよう、導いていきたいと思ひます。小学部では教科書が「上」に加え「下」も加わります。中学部では、より一層進学を意識した学習へと進んでいきます。ご家庭での見守り、ご支援をどうぞよろしくお願いいたしします。

国慶節の中、ノーベル文学賞に「カズオ イシグロ」が選ばれたというニュースが飛び込んできました。日系イギリス人として日本でも多くのファンをもつ彼の受賞は、本当に嬉しいものでした。私は、数年前、偶然観たNHKの番組で彼の存在を知り、一時期彼の作品に没頭したことがあります。今、彼の本が手元にないことを大変残念に思っています。(電子書籍を利用すればという声が聞こえてきそうですが) このニュースに触れ、たまたまなく読書をしたくなったという方も多いのではないのでしょうか。

読書については、携帯電話、スマートフォンなどの普及で、読書離れが加速している、読書の時間がSNSの時間にとって代わられていると言われて久しいです。実際、私も本に向かっているときに、メッセージ等が入ると、そちらに流れてしまうことがあります。読書は、知識の獲得や情報処理だけではない豊かな時間を私たちにもたらししてくれます。お話に没頭して読む楽しみ、他の人と分かち合う楽しみ、そして、作家との対話、大切な一冊との出会い。子どもたちには、この読書の楽しみを多感なこの時期に味わってほしいと思うのです。青島日本人学校の図書館にはたくさんの優れた本があります。私が大人になって読んだ児童書や小説の中にも、私を揺さぶった本があります。それらの本を子どもたちに紹介していくこと、私自身が本との新たな出会いを求めてじっくり読書することなど、青島の長い秋から冬にかけて取り組んでいきたいと思ひます。

**E.L.カニグズバーグ作
松永ふみ子訳 岩波書店**

大人になってから読んだ児童文学のジャンルの本ですが、私はこの本がきっかけとなってニューヨークへ旅行し、美術館巡りをしました。(お話の舞台はメトロ美術館です) 個人で初めての海外旅行の充実感が、その後の教師人生の選択の幅を広げてくれたように思ひます。

クローディアの秘密



図書ボランティアの方々に読み聞かせや図書館整備をしていただいています。感謝いたします。



第14回運動会では、ご来賓、運営理事会、PTA役員の方々を始め、たくさんの保護者の方々にご協力いただき、大成功で幕を閉じることができました。子ども一人一人の活躍と成長した姿をご覧いただけたものと思ひます。皆様のご声援や励ましのおかげと深く感謝申し上げます。

中学部の部活動

顧問 熊谷吉朗

中学部は、毎週火・水・金の放課後、部活動を行っています。年度当初、事前アンケートを行い、希望の多かった種目から活動内容を決定しています。今年度、4月～9月までの前期はバドミントンに取り組みました。生徒たちのバドミントンの経験は、学校以外でも外部指導者に習っている者から、これまで一度もやったことのない者まで様々でした。

部活動は、まず、全員が日替わりキャプテンを体験し、全員がキャプテンの大変さを学ぶことから始めました。(その後3年生の経験者からキャプテンを選出しました。)そして、部員一人ひとりが「○○先生に勝つ」など個人目標を立てることを重視しました。

日々の練習はステップやペア練習などの基本練習、上級者、初心者に分かれて話し合っていく課題練習、試合練習など、その時期にあった練習に取り組みました。練習後の10分間は、「青島サーキット」としてサーキットトレーニングに取り組み、瞬発力や筋力、体幹を鍛えました。活動の最後にはストレッチを行い、けがを防止し、疲れを残さないようにしました。また、その日の練習で気づいたことは部活ノートにまとめ、翌日顧問に提出するようにしました。教わったことをしっかり記録に残している生徒ほど、意識して次の練習に臨み、上達も早いと感じました。

9月27日(水)、それまでの練習の成果を図る試合会を行いました。試合後の部活ノートには、「試合では負けてしまったけれど、前できなかった技が使える、相手を前後に動かして嬉しかった。」などの感想が見られました。

後期はバスケットボールに取り組みます。授業では学べないことを、今後も学んでいってほしいと願っています。



9月27日試合会を終えて

本校の道徳教育

道徳主任 西村拓也

先月の運動会では、赤白に分かれて得点を競いました。勝負事である以上、そこにはもちろん勝ち負けが存在し、仲間と勝利を喜び合ったり、悔しさから涙をこぼしたりする児童生徒の姿がありました。一方で、運動会後に児童生徒からは、このメンバーで一緒にやれてよかった、一緒にがんばってくれてありがとう、などと友達への感謝の声がたくさん聞かれました。そこには協力や信頼など、目には見えないものを実感し、成長した児童生徒の姿がありました。このような心の発達は、道徳の時間を核とした学校教育活動全体の中で育まれていきます。

新学習指導要領の実施に伴い、今までの「道徳の時間」は「特別の教科 道徳」へと名称を変えます。「道徳科」では「考え、議論する」道徳授業の実現がより重視されます。青島日本人学校では、これまでも「思いやりの心や感動する心をもつ感性豊かな児童・生徒の育成」を目指す児童生徒像の一つにあげ、少人数教育や異学年交流に積極的に取り組むとともに、体験活動の充実にも力を入れてきました。自らの心を動かされる、揺さぶられる体験・経験というものは児童生徒の人格形成に大きな影響を与えるからです。そして、今回重要視されている「考え、議論する」道徳。一人一人が考えをもち、議論し、さらに考えを深めていくためには、その下積みとなる知識や豊かな経験が一層必要不可欠になります。新学習指導要領移行期の現在、教員も研修を進めながら、授業改善に取り組んでいます。

10月25日(水)の道徳参観は、本校道徳教育の一端を公開するものです。当日は担任が道徳の授業を行います。(中学部は3学年合同の授業を行います。)授業終了後には、担任と保護者が授業や児童・生徒について話し合う懇談会を設けています。また、業間休みには本校の道徳教育について、校長が講演を行います。このような取組は本校独自のものであり、大変貴重な機会です。保護者の皆様には、平日の開催でご多用かとは存じますが、ぜひ、ご参加ください。

